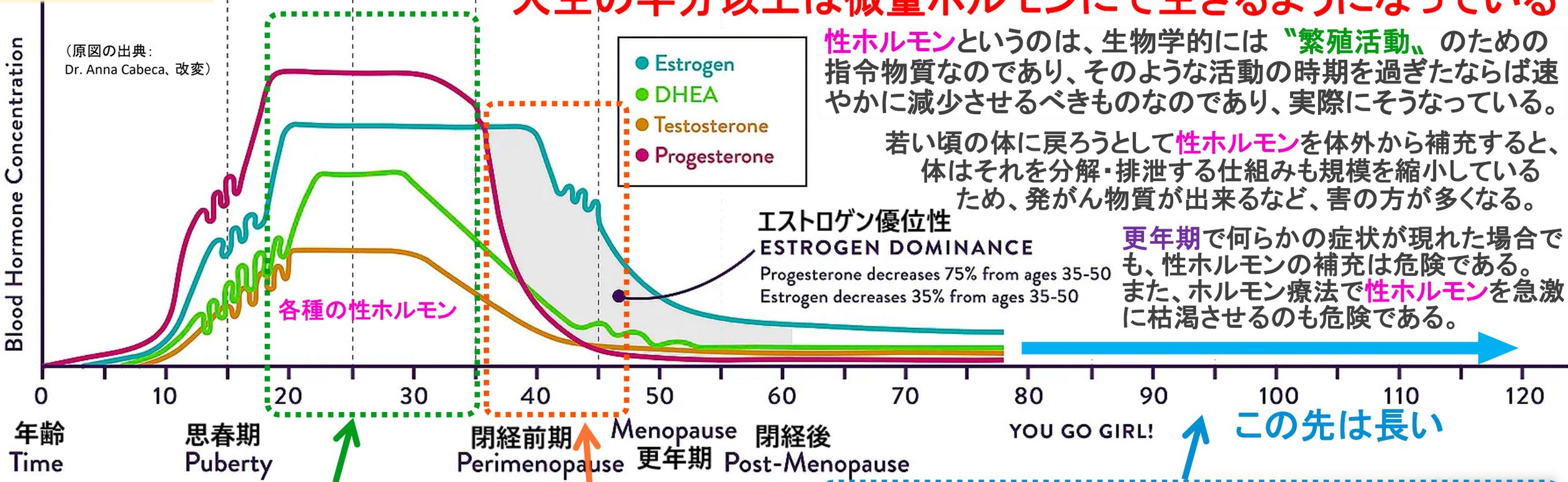


# 人生の半分以上は微量ホルモンにて生きるようになっていく

性ホルモンというのは、生物学的には“繁殖活動”のための指令物質なのであり、そのような活動の時期を過ぎたならば速やかに減少させるべきものなのであり、実際にそうになっている。

若い頃の体に戻ろうとして性ホルモンを体外から補充すると、体はそれを分解・排泄する仕組みも規模を縮小しているため、発がん物質が出来るなど、害の方が多くなる。

更年期で何らかの症状が現れた場合でも、性ホルモンの補充は危険である。また、ホルモン療法で性ホルモンを急激に枯渇させるのも危険である。



この期間は繁殖期であるため、仕方なく危険な性ホルモンが増やされている。



変身期間



のるが濃危険化での使用体に変身をさせたりする

更年期を過ぎると、女であろうが男であろうが、ヒトとして同じ仕組みで細胞や体が動くようになる。これが、ヒト本来の姿である。

